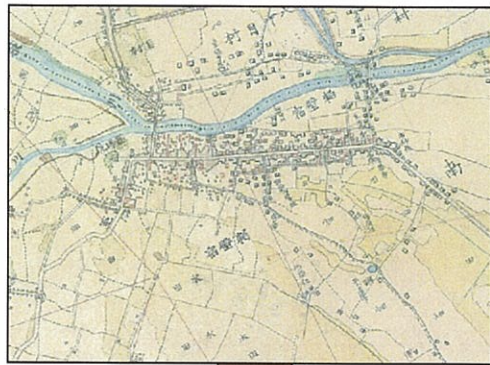


江戸時代  
宿場町と河岸



日光街道の4番目の宿場町として粕壁宿が置かれ、人・物・文化の往来と交流が活発であった。古利根川には江戸を結ぶ航路があり、粕壁は陸運と水運の結節点として重要な役割を果たした。周辺には新田が開墾され、粕壁は米麦の集散地として賑わいを見せた。

明治～昭和時代  
鉄道の開通  
市街地の拡大



明治32年の東武鉄道の開通により、宿場町と駅の間にも市街地が広がった。西口は当初なく、水田が広がっていたが、区画整理とともに西口が開設され、新市街地が拡大していった。大規模商業施設の開業や市役所の西口移転などにより、西口の賑わいが高まっていった。



■ 都市と自然を結う。

かつては宿場町と川や農村が強い繋がりを持っていたが、都市化によりその繋がりは失われた。都市に自然を織り込み、両者の関係性を再構築することにより、自然と共に生き、自然を感じる都市を実現する。水と密接に関わってきた春日部の歴史を象徴する古利根川に、都市と自然の接点として親水利用と生態系保全とのバランスのとれた水辺空間を創出する。都市化により緑が少ない中心市街地には、鉄道高架化や市街地整備によりオープンスペースを生み出し、緑豊かな憩いの空間をつくる。

■ 歴史と未来を結う。

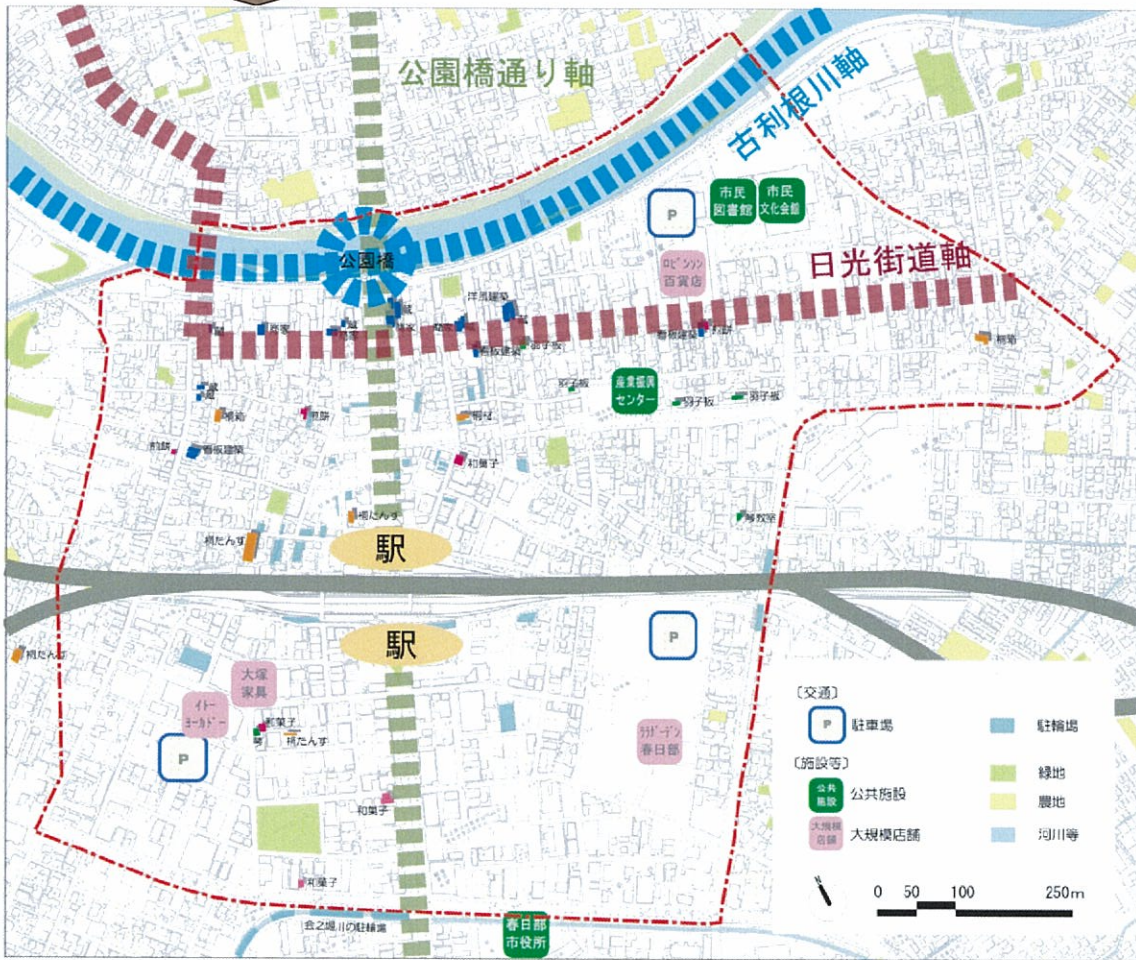
歴史と未来をつなぐのは現代の私たちである。宿場町の歴史的な蔵や町家を保全し、交流空間として活用することにより、かつて人々が往来した宿場町の遺伝子を蘇らせる。町に散在する歴史的建物や伝統工芸店を巡る歩行者ネットワークを形成し、顕在化させることにより、地域資源としてまちの活性化に生かす。東口市街地整備地区には伝統工芸とアートを融合させた匠ビレッジをつくり、若者に伝統工芸を継承し春日部のクリエイティブな都市文化として発信していく。

■ 駅の東西を結う。

鉄道高架化を契機として東西が分断されていた交通ネットワークを再編し、駅の東西を自由に動きまわれる人の流れを生み出して、東西の市街地を一体化させる。高架下の歩行者モールや駅周辺の歩車共存モルを整備して、歩行者と自転車に優しい歩いて楽しい街路空間とする。大規模商業施設のプリンジパーキングと循環バスのパッケージシステムの導入や、東口と西口のバス直通運転により、駅の東西の各施設を公共交通でつなぎ、歩行者をサポートする。

■ 人と人を結う。

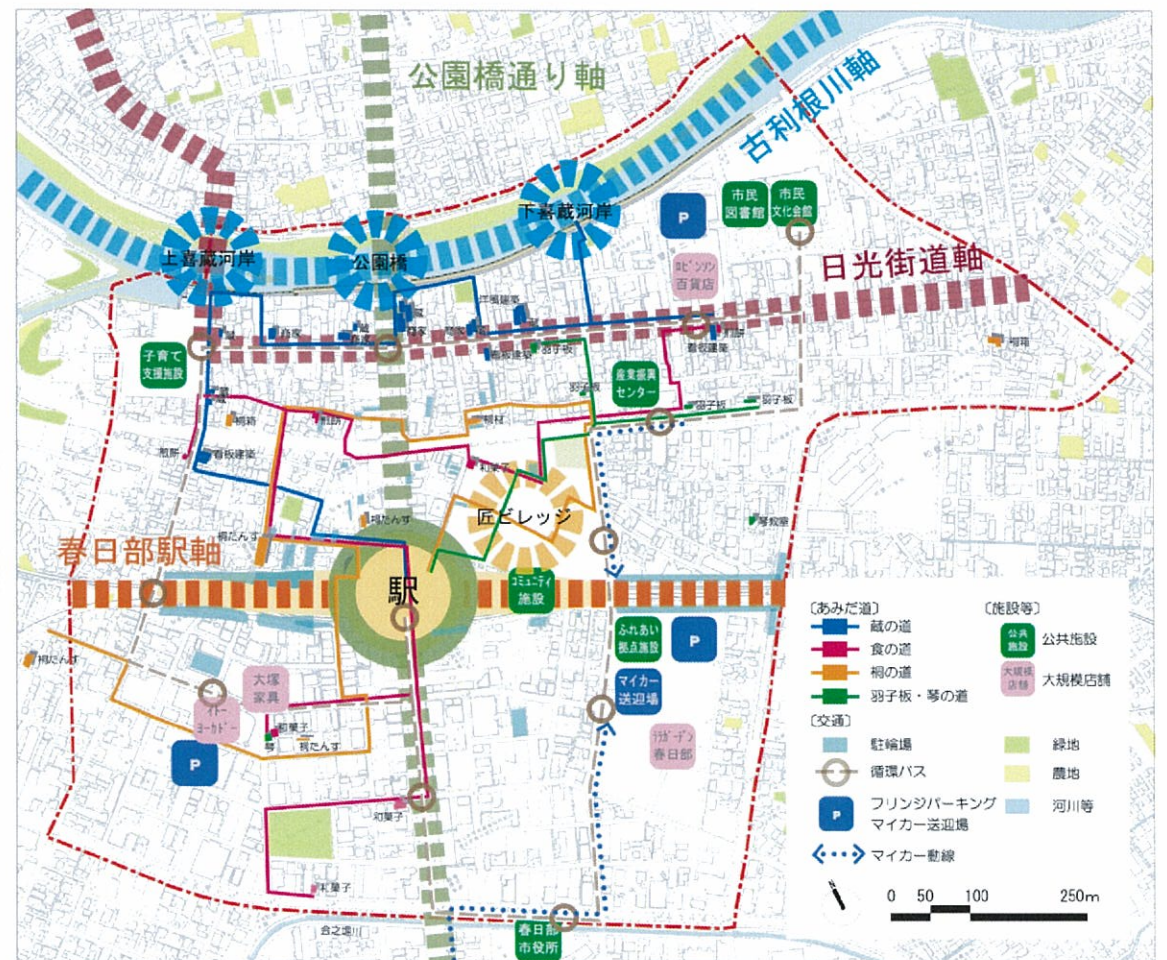
宿場町に住む古くからの市民や、マンションや郊外戸建住宅に住む新しい市民など、多世代の多様な市民が集まるコミュニティ施設を、交通利便性が高く市民が集まりやすい駅周辺に配置する。コミュニティ施設に集まる市民どうしにつながりが生まれ、市民の連携を誘発して市民主体のコミュニティを醸成する。また参加型まちづくりにより、たくさんの市民がまちづくりの主役となるような仕組みを構築し、官民協働のまちづくりを推進していく。



まちを  
結う



様々なまちの資源をテーマごとに結び編み合わせることで、まちの個性がテクスチャーとなって浮かび上がる



自然 ● 市街地内に少ない水辺と緑地

水運の衰退と共に川との関係が希薄になり、河岸も消滅した。古利根川には水鳥が飛来しているが、水質・景観・親水性などの面であまり良好とは言えない。郊外には農地と屋敷林が広がっているが、市街地内には区画整理でできた街区公園がいくつかある程度で、まとまった緑が少なく、潤いを感じられない。

歴史・文化 ● 散在・減少する伝統的資源

宿場町の名残として蔵や町家などの歴史的建物が日光街道沿いに散在し、周縁部には社寺があるが、蔵や町家はまちに対して開かれていない。桐たんす、羽子板、麦藁帽子などの伝統工芸の店や煎餅屋がわずかに残されているが、後継者がいないため徐々に減りつつある。

資源課題

交通 ● 鉄道による東西の分断

鉄道により交通が分断されており、東西方向の往来は踏み切りや地下道しかなく、不便かつ危険である。ララガーデンの開業により、西口の賑わいが増していく中で、西口から東口への人の流れがないこともあり、旧来の商店街がある東口は衰退傾向にある。

コミュニティ ● 分散している公共施設

様々な公共施設が中心市街地内や周辺地区に存在しているが、分散して位置しており、相互利用が不便である。市民どうしや来街者と市民が交流する場が市街地内に少ない。また市内全域からのアクセスが容易な駅周辺には公共サービス施設がない。

自然 ● 古利根川の再生と緑のオープンスペース

古利根川の多自然化により水鳥などの生息環境をつくる。また河岸の復元と親水化により、川とまちとのつながりを再生する。駅や駅前広場、市街地整備地区は郷土性による積極的な緑化を行い、市街地内にまとまった緑のオープンスペースを生み出す。

歴史・文化 ● まちの資源をつなぐ  
あみだ道ネットワーク

歩車共存モールであみだ状にまちの資源をつなぎ、歩いて楽しい街を面的に展開する。市街地整備地区に伝統工芸を集積した匠ビレッジをつくり、伝統工芸や文化を若者に継承する。

交通 ● 東西一体の交通ネットワーク

高架下の歩行者モールと駅周辺の歩車共存モールにより、人々が駅から街にしみ出し、安心してまち歩きが楽しめるようになる。駅と公共施設、プリンジパーキングのある大規模商業施設をつなぎ東西の市街地を巡回する循環バスを運行し、歩行者をサポートする。

コミュニティ ● 人と人が交流する駅とまち

ふれあい拠点施設の一部をコミュニティ施設を駅高架下に導入し、市民が集まり活動できる場を便利な交通結節点に集積する。蔵を生かしたカフェやギャラリーなどの交流機能を宿場町の歴史的建物に導入し、人々のコミュニケーションの場とする。

方針

# 春日部「結」マップ

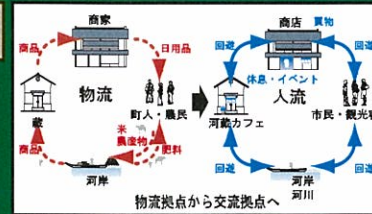
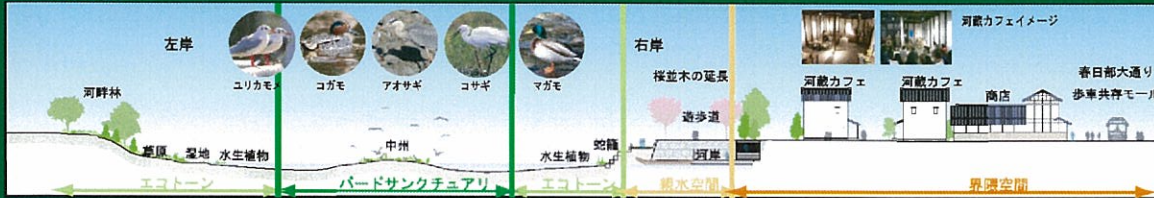
～生活者も来街者も楽しめる「結」のまち～

- A 古利根川・日光街道軸
- B あみだ道ネットワーク
- C 交通ネットワーク
- D 匠ビレッジ
- E 春日部駅軸



## A 古利根川・日光街道軸—川とまちのつながりの再生

- 河岸の復元：上喜蔵河岸・下喜蔵河岸の二つの河岸は、水運で発展した春日部（船壁）のまちの原点です。物流拠点の役割を終えた河岸ですが、人とひとが出会う水辺の交流拠点として再生されました。桜並木の遊歩道とあわせて水辺の散歩をお楽しみください。
- 河蔵カフェ：川沿いの歴史的な蔵を活用した、憩いと休息の空間です。季節ごとにギャラリーやミニ演奏会などのイベントも開催していますので、一度覗いてみることをお勧めします。
- 河川生態系：古利根川の豊かな生態系を守るため、バードサンクチュアリと水辺のエコトーンを整備しました。鳥たちを驚かさぬようマナーにはご注意ください。



## B あみだ道ネットワーク—まちの再発見

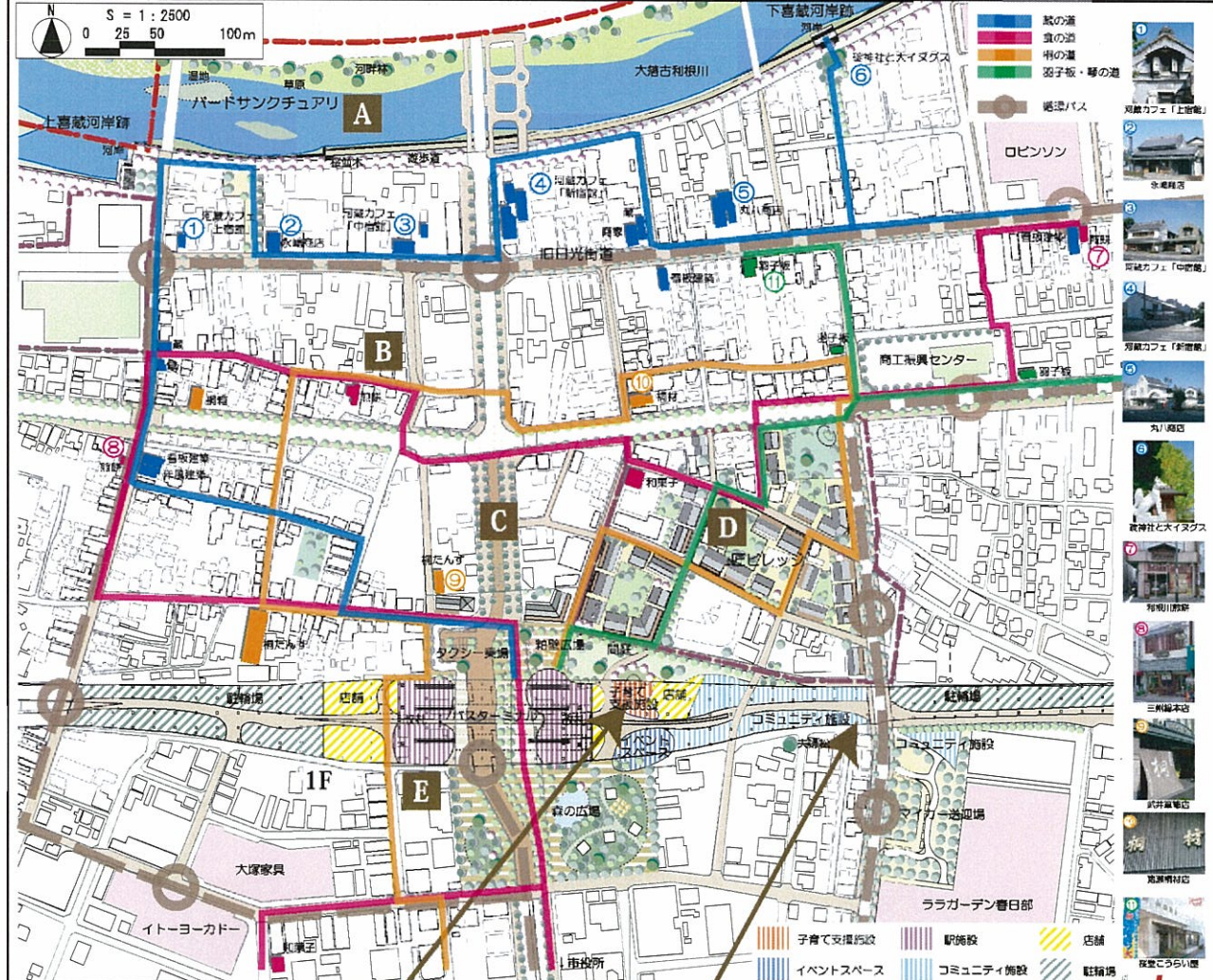
様々な街の資源を再発見する多様なコースを設定しています。どの道を選ぶかはあなたの自由です。このマップときれいに整備された道路をたどるに、あなた独自のあみだ道ルートを見つけてください。新しいコースの提案・紹介も募集しています。

- 蔵の道**  
蔵造りを中心に歴史的な建築物を巡ります。
- 桐の道**  
伝統産業である桐細工の店と工房を巡ります。
- 食の道**  
煎餅や和菓子など美味しい食べ物を巡ります。
- 羽子板・琴の道**  
羽子板と琴の店と工房を巡ります。



## C 交通ネットワーク—歩行者と自転車にやさしいまち

- 駅前通りの東西連結と公共交通専用化  
公園通りの駅前近は、バス・タクシーなどの公共交通専用とし、歩道幅員を確保して、人がゆったりと歩ける通りに生まれ変わりました。
- バスの東西直通運転  
東口・西口それぞれから発着しているバスが直通運転となり、西側から寄居町の商店街へ、逆に東側から市役所へと直接アクセスできるようになりました。
- マイカー送迎場  
マイカーの送迎は、地域振興ふれあい施設予定地の一部に代替広場を確保しました。高架下のモールを通り、雨に濡れずに改札口へ行くことができます。
- 駅前広場の機能再編  
駅前広場でバスの折返しと自家用車の送迎スペースが不要となった分、船壁広場と森の広場の二つの大きな広場が生まれました。
- 来街者のためのフリンジパーキング  
中心市街地への来街者の駐車場は、大型商業施設の駐車場を利用していただきます。駐車場からはレンタサイクル・循環バスが利用できます。
- 中心市街地を循環するバスの新設  
駅やフリンジパーキングから中心市街地の各施設へのアクセスとして、循環バスが新設されました。中心市街地内の各施設を結んでいます。
- 高架下の駐輪場整備  
高架下に十分な台数の駐輪場が整備され、放置自転車が解消されました。駅から離れた会之堀川の駐輪場も高架下に移転し、水辺空間を取り戻しました。
- タウンモビリティサービス  
商店街・大型店・駐輪場では自転車や電動カート・ベーカーを借りることができます。街中にあるパリアも解消されてお子様連れから高齢者の方まで安心してまちなかを動き回ることができます。



## D 匠ビレッジ—文化の継承と発展

- 工房  
春日部に伝わる伝統工芸の匠の技を継承するまちです。街路と路地に面して点在する工房では、技術習得に励む若い職人の仕事の見学や、製作体験、ウィンドウショッピングが楽しめます。伝統技術と新しい感性が出会うことで、地域の産業・商業の活性化が期待されています。
- まちなか居住の推進  
匠ビレッジの建物上階は住宅となっており、昔からの場所に暮らす高齢者から、工房の職人やアーティストなどの若者まで、多世代の人が住んでいます。



### \*匠ビレッジができるまで～身の丈再開発による市街地整備構想地区の整備

駅前立地しながら土地の高度利用が図られていない市街地整備構想地区では、各地権者の意向を尊重しながら個別建替え、共同建替え等の組み合わせでまちの更新が進められています。中心市街地の街並みとスケールを調和した分棟型の「身の丈再開発」として、投資規模が小さくリスクの小さい建替えが行われています。街並み誘導型地区計画とデザインガイドラインに



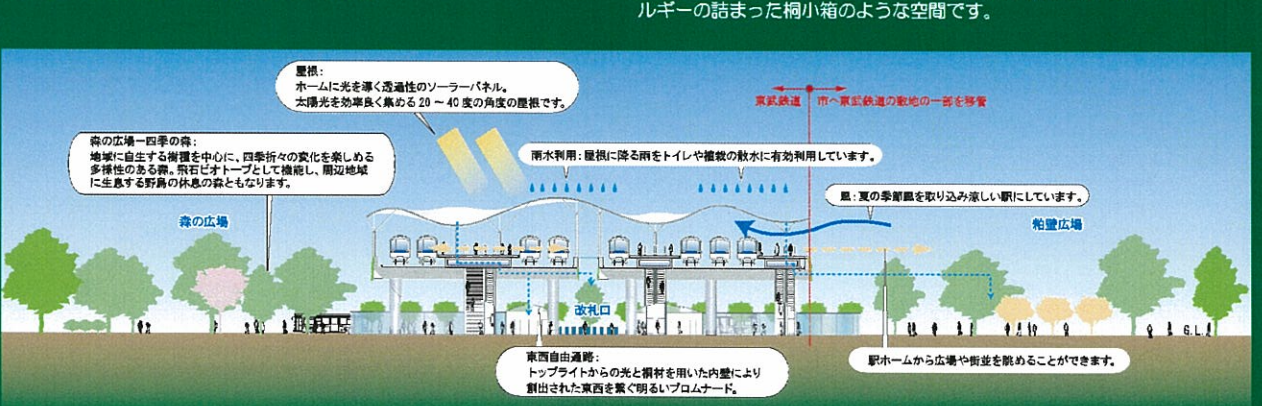
## E 春日部駅軸—新しい都市軸の創出



- 森の中の駅  
やわらかい光に包まれたプラットフォームに降り立つと、歩行者のための広場として生まれ変わった駅前広場の豊かな緑が出迎えてくれます。船壁広場では、定期的に朝市も開かれ、周辺農村でとれた新鮮な食材を、木洩れ日の下で買うことができます。
- エコステーション  
新しい駅舎は太陽光発電や雨水利用、風の利用を積極的に取り入れたエコシカルな駅舎です。広場の植栽は周辺で見られる屋敷林の植生を参考としています。

### ●駅利用者の生活支援機能

高架下には、雨に濡れることなく買い物のできる店舗や、匠ビレッジとの間の緑地（間庭）に面した駅直近の位置に一時預かりなどの機能を持った子育て支援施設が設置されています。



### ●コミュニティ施設—春日部の引き出し

ララガーデン跡に計画されている「地域振興ふれあい拠点施設」の機能の一部を高架下に移すことにより、匠ビレッジとつながる多様な市民活動の場が生まれました。内装には桐材が活用され、市民のエネルギーの詰まった桐小箱のような空間です。

## ■市民が主役となるまちづくりの仕組み

古利根川沿いの水辺空間整備、日光街道の歴史景観整備、鉄道高架化に伴う駅前周辺整備などについては、市民・行政・事業者・専門家からなる会議が開催され、整備の方針、計画内容、管理運営方法の検討が行われています。

